

マネージメント情報

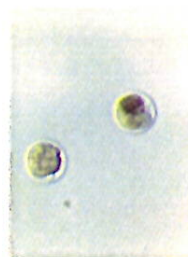
※受精卵業務についてお知らせ

先日、太田授精師がリピートブリーダーの育成牛に移植した新しいラボで作った体外受精卵の妊娠が確認されました。追い移植ではありましたが少しだけ前に進みました。

追い移植という方法は基本的に行われているのは日本だけです。ちなみに追い移植という固有の英単語はありません。論文では“embryo transfer after 7 days estrus with AI”という少々長い表現になります。“授精伴う発情 7 日後の受精卵移植”という意味です。体外受精卵が世に出始めた頃には追い移植をしても双子の発生率は低かったのですが(胚の品質が悪かったので受胎したのは AI の方と考えられています)最近では胚の品質が良くなったため双子の発生率は上昇しています。

※体外受精卵の委託培養

先日、ゆうべつ牛群管理サービスの安富先生が OPU で吸引した卵子が私たちのラボに送られてきて培養しました。黒毛和牛でしたが、1 頭が 12 卵子のうち 4 個 (33.3%)、もう 1 頭 2 卵子から 1 個 (50%) の移植可能な体外受精卵を作ることができました。安富先生に送り返した受精卵のうち 1 個は新鮮卵移植、残りの 4 個は凍結されました。



今私たちが目指しているのは経産牛でもリピートブリーダー牛に対してでも単独移植で受胎する体外受精卵を作り、この技術を普及させることです。今回の委託培養もその一環です。前回の M 情報にも書きましたが、今までにない形を作り上げていきたいと考えています。一段ずつ階段を上るようにまずは新鮮卵で実証し、次に凍結卵でも安定して受胎する体外胚を作れるようにと頑張っているところです。

.....

・繁殖検診をされている農場の最近の妊娠率は数年前と比べて格段に高くなってきています。以前は 20% を目標に考えてやってきましたが、プログラム授精 (TAI...Timed AI) の進歩 (W-OvSynch, W-Synch, Re-Synch 等) と積極的にこれらのプログラムを取り入れることにより現在は 25% を超える農場が珍しくありません。

20 年ほど前に私の担当する妊娠率が高く発情発見の技術に長けている方をお願いして、私の発情発見方法という文章を書いていただいたことがあります。

先日その時に書いていただいた農場の奥様に今同じ題目で文章を書いて欲しいと言ったらどういふことを書くと思いますか?と尋ねたところ即答で“20 年前と同じ!”という答えが返ってきました。ちなみにこの農場の現在の妊娠率は 30% を超えて 33% です。

繁殖管理の基本は自分の目で牛を観察して発情を発見するということ!

2007 年に黒崎が執筆した Dairy Japan から出版されている繁殖管理の本があります。その名も「それでも基本は発情を見つけて種を付ける」普遍的のかな?と思っただいです。

・モニタロウの中古ウエス

分娩直後の濡れた子牛を拭いてしっかりと乾かしていますか?冬期間にカーフウォーマー (ヒーター付き子牛加温装置) を使用している農場が増えていますが、子牛をカーフウォーマーに入れる前にしっかりと子牛を乾かすことが重要です。暑熱対策に牛に水をかける方法がありますが、これは牛にかけた水が気化する時 (乾燥する時の気化熱) に牛から熱を奪うことによって暑熱効果があります。冬期間も同様ですので濡れた子牛が乾燥する時には体温が奪われることとなります。ということでカーフウォーマーに入れる前にしっかりと乾かすことが大切です。

そこで、このモニタロウの中古ウエスはどうぞでしょうか?という話です。安価で消毒済 (クレゾール水溶液) のタオル地の布切れです。20kg で運賃別で 8,390 円です。

実際に使用しているお客さんからおしえていただきました。

H31.2.15.Y